令和5年度　　学校評価自己評価表　（中間評価）

三次市立和田小学校

【学校教育目標】 確かな学力を身に付け，他者との関わりを通して，自らを伸ばそうとする子供の育成
（1） 確かな学力を身に付け，主体的に学び合う児童
（2） 自他を尊重し，豊かな感性と社会性を身に付けた児童
（3） 基本的な生活習慣を身に付け，健康でたくましく生きる児童

【めざす子ども像】
≪知≫ ⇒ 学ぶ喜びを感じる子，考えを表現する子　　・・・【学ぶ子】
◎ 生きて働く知識・技能の習得（知識・技能）
◎ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成（思考力）（判断力）（表現力）
≪徳≫ ⇒ 自分の夢や目標に向かって挑戦する子　　・・・【挑戦する子】
≪体≫ ⇒ 他者を思いやり，認め合う　　・・・【思いやる子】
◎ 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力，人間性等の涵養（主体性）（協働性）

【使命・存在意義】
なりたい自分の夢の実現のために，和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して，ふるさと和田への郷土愛を育むとともに，変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。

【評価基準】　（達成値）÷（目標値）×100の値
A：目標を達成（100以上）　B：目標をほぼ達成（85以上100未満）　C：目標を下回る（75以上85未満）　D：目標を大きく下回る（75%未満）

	中期経営目標	短期経営目標		具体的な取組・方策	評価項目	中間目標値	最終目標値	中間評価（10月）	最終評価（2月）	結果と課題の説明	改善計画	関係者評価	（ご意見）学校関係者評価　A：適切　B：不適切　C：改善が必要
確かな学力の定着	確かな学力を身に付け，主体的に学ぶ児童の育成	基礎・基本の力， 活用力の定着	1	・分かりやすい授業，個に応じた指導により，基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ＩＣＴ等の活用により，思考を深め，表現するとともに，学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上	85		A		・児童アンケート「授業がよくわかる」の結果は，平均95%で，全学年が目標値（85%以上）を上回った。	【ICT等の活用】 ・引き続き，児童の発達段階に応じて，ICTを活用し，思考力・表現力を育てるようにしていく。 ・巡回相談等，関係機関と連携し，個の特性に応じた手立て・支援を行う授業を実施する。	A	・先生方が丁寧に指導されている。
					・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準（70%）以上の児童の割合85%以上	80		A		・3教科の平均では，2，5，6学年で達成できた。 ・理科は，どの学年も目標を達成することができた。思考力・判断力・表現力は付いてきている。 ・算数は，全学年が目標を下回っている。個別に指導が必要な児童がいる。	【算数への取組】 ・基礎的な計算の力，見直す習慣，量感を身に付ける。 ・図形の学習では，具体物を操作する活動を重視する。「具体物を操作する活動⇒想像の中での操作への移行」「具体から抽象への移行」の思考を目指す。 ・図形を自分で描き，図形への書き込みをして考える習慣を付ける。 ・1，2，3，4年生の算数を複数体制で行う。	A	・見通しをもった指導の成果であろうと感じる。
		主体的な学び	2	・児童に疑問や気付きをもたせ，解決の目的を明確にした授業を仕組む。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	80		B		・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」の結果は，平均78%。 児童の疑問や気付きを捉え，児童の見方や考え方を働かせるように工夫している。	・引き続き，理科で取り組んでいる課題発見解決学習を全ての学習で取り組む。 ・日頃の授業から，自分で解決方法を考えたり，友だちから出た様々な考えの中から最適な解決方法を選んだりしながら学習に取り組ませる。 ・支援の必要な児童には，ペアトークや話し合い活動の中で解決方法を見出させることにより，達成感をもたせ，次への学習意欲へとつなげる。	B	
					・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」80%以上	80		A		・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」の結果は，平均95%で，全学年が目標値（80%以上）を上回った。		A	・子供たちの肯定的な評価が95%と高い。職員の意識との差には何があるのか。
豊かな心の育成	自他を尊重し，豊かな感性と社会性を身に付けた児童の育成	人を思いやる心の育成	3	・読書を推進するとともに，道徳など教育活動全般において，人を思いやる心を育む。	・読書目標冊数（低：月8冊，高：月4冊）を達成した児童の割合75%以上	75		A		・読書目標冊数達成率　76%【4月：75．5%，5月：74%，6月：78%，7・8月：75．2%】 ・朝読書の時間の確保とチャイムと同時に読書が始められたことが成果につながった。 ・毎日の貸し出しを可能にしたことで，図書室の活用状況が活発になった。 ・読書冊数の目標の見直しと，達成者に送られる賞状により，読書意欲が高まった。 ・読書冊数に学年の偏りがある。記録の習慣化が図れていないことも課題。	・今までの取組を継続するとともに，読書推進委員との連携を図り，読み語りや図書イベント・図書室の環境整備などを通して，読書の楽しさを感じられる取組を計画・実践する。 ・図書委員会による読書推進活動を実施する。（ポップづくり，紹介ポスター，読み語り等）	A	・本を読む環境ができている。
					・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	80		A		・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」 達成率80% （1年生：69%　2年生：81%　3年生：90%　4年生：69%　5年生：87%　6年生：83%） ・アンケート項目「友達に悪口を言ったり，嫌がることをしたりしない」割合が低い傾向が見られた。「自分が悪いと思ったら，自分から謝ることができる」割合は高い傾向が見られた。相手の気持ちを考えない言動が見られるが，自分がいけないと思ったら，自分から先に謝ることができている。	・相手の気持ちに立った言動の判断を自分でできるように，道徳の時間や特別活動を中心として，教育活動全体でソーシャルスキルを身に付ける。	A	・日々の取組の成果が，子供たちの意識につながっていると思います。
		人権意識，自己有用感の向上	4	・縦割り班活動，委員会活動，学級活動等で他者と協働して取組む。	・児童アンケート「レベル3（相手の目を見て）の挨拶ができた」80%以上	80		A		・レベル3の挨拶　児童肯定的評価　88%（そのうちレベル3の挨拶がいつもできている53%） 指導者評価肯定的評価　60%　保護者肯定的評価　93．6% ・半数以上がレベル3の挨拶ができており，保護者による街頭指導でも挨拶に関する肯定的な評価が多い。 ・児童の自己評価と指導者の評価に，大きな差が見られる。要因として，挨拶はしているが声の小ささや元気のなさ，友達に対する挨拶があまり見られないなど，児童は気付いていないが，指導者が感じていることが挙げられる。	・挨拶目標の取組に対する振り返りをその都度確実に行い，自己評価し今後につなげる。 ・挨拶強化週間を設けたり，挨拶標語の全校掲示をしたりして，挨拶の推進を図る。 ・指導者による，挨拶や児童の活動に対する評価を学級や委員会で意図的に行い，挨拶のモデルの定着を図る。	A	・保護者，地域の協力も大きい。 ・学校の取組への理解や協力の大きさが伺える。 ・来校した際，児童の方から大きな声で挨拶され，習慣化されていると感じました
					・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	80		A		・児童アンケート「学級や学校のために進んで自分の仕事をしていますか」平均98% 進んで自分の役割を果たしていると感じている。自分の仕事に対して，前向きに取り組む姿が見られる。	・日々の活動の振り返りを行い，自分の行動に自信がもてるように，指導者が肯定的評価を行う。 ・前向きに取り組んでいるが，委員会や係の仕事など忘れてしまうこともあるので，児童主体と取組になるよう声をかける。	A	
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身に付け，健康でたくましく生きる児童の育成	基礎体力の向上	5	・体育科の授業，委員会等の児童の主体的な取組により，体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業，委員会，体育的行事の充実」85%以上	85		B		・職員アンケート「体育科の授業の充実」は，83．3% どの学年も，授業開始前にサーッキト・トレーニングを取り入れたり，授業の内容に関係する運動を準備体操の時に取り入れたりしている。また，児童実態に合わせた運動内容（コースを分けるなど）の取り組みや，基礎体力向上を意識した指導を全学年で行っている。 ・授業のめあめては全学年提示しているが，ICTの活用，児童同士で意見交換，運動の様子を動画に撮り，見直すなどの授業の振り返りの取り組みができていたは33．4%だった。 ・体育的行事の充実では，100%達成できていた。運動会や校内水泳記録会などの行事では，児童が主体的・意欲的に取り組む姿が見られた。また，広島ドラゴンフライズの選手によるバスケット指導を実施し，専門的な技能を高めることができた。 ・委員会についての内容は，委員会での活動が未実施のため，2月の評価で行う。	・体育の授業の振り返りの充実を図るために，体育科の授業でも振り返りの時間を意識的に設ける。 ・「体育の授業を振り返る取り組みをしている」から「各単元ごとに振り返りをしている」，「どんな振り返りをしているか」など，職員アンケートの質問項目を見直す。 ・2学期，3学期に保健委員会が体力づくりを目的とした全校レクを実施する予定。	A	・基礎体力の向上に向けた取組については，中学校でも課題意識をもって取り組んでいます。
		基本的な生活習慣の確立	6	・メディアの使用の仕方を自ら管理し，健康な生活を送る。	・児童アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上	80		A		・児童アンケート「家でのメディアルール（4月～9月）」が守れている児童は80% 【学年別結果】1年87%，2年81%，3年77%，4年84%，5年68%，6年81% ・「我が子はメディアルールを守っている」については，61．7%。「メディアルールが守れている」に関して，児童の評価と保護者の評価に大きな差が見られた。	・保健だよりだけでなく，朝会や学級活動などで全校児童にメディアとの関わり方について考えさせる機会を設ける。（外部講師を招聘し，実施予定） ・保健室前の掲示でメディアルールの結果を数値で表すなど，子ども達にわかりやすく周知する。保護者へは，保健だよりを通じて結果を周知する。 ・秋に視力検査を実施し，春の検査結果と比較する。その結果を，掲示やお便りで全校に周知する。	A	
					・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上	80		A		・保護者アンケート「我が子のメディア使用実態を把握している」については，89．4%	・「おうちのメディアルール」の記入を児童本人ではなく，保護者に依頼し，児童の自己評価と保護者の評価を合わせて記入してもらう。	A	・メディアルールについての保護者の自己評価は，よい保護者啓発になり得る。
信頼される学校	保小中高の連携を進め，保護者，地域から信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	7	・小中一貫教育を基盤とし，地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校評価を学校運営に生かす。	・外部関係者を招聘した教育活動各学年２回以上	年2回		A		・外部関係者を招聘した教育活動の推進については，コロナ禍を経て各学年が計画に推進できており，2回以上の実施ができている。 ・地域での学習（1年綿花づくり・さつまいもの栽培，2年ぶどう作り体験，3年西平牧場・そば作り，4年国兼川の学習，5年米作り・和田狂言太鼓，6年寺町廃寺の学習・租税教室）については，計画的に実施できており，地域の協力により児童の主体的な学びにつながっている。	・外部関係者を招聘した教育活動については，計画的に推進できている。1つ1つの学びが探求的な学びとなるよう，学習内容のまとめや表現等の取組を工夫して推進していく。	A	・地域の資源を有効に活用し，教育活動に役立てることができている。
					・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上	80		A		・保護者アンケートにおける「教育活動に関する肯定的評価」については，94．6%と目標達成している。 ・学校だより（月1回），学校HP（毎日）の発信を行い，学校の教育活動や児童の様子を積極的に保護者へ伝えている。また，学校からの通知や学級通信等を連絡通信アプリtetoruで配信し，保護者にも「カラーで見れるからよい。」「携帯で確かめられるから便利。」と肯定的な意見を受けている。	・保護者アンケートにおける「教育活動に関する肯定的評価」については，概ね保護者の満足を得られている。後期も，安全・安心な学校づくりを基盤とし，学校教育目標の達成に向け，一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせる取組を充実させる。 ・保護者アンケートにおける「学校の教育方針・活動の様子がわかる。」の項目で，13．3%の保護者が否定的な反応をされている。さらに，保護者に興味をもっていただける方法や内容のを工夫し，情報発信していく。	A	・教育活動の丁寧な発信によるものであろう。
		働き方改革の推進	8	・業務改善の推進，職員のタイムマネジメント力の向上を図る。	・職員の超過勤務 月45時間以内80%以上	80		A		・1か月の超過勤務時間45時間以内の教職員の割合は，4～9月までの全月100%と十分な成果が見られる。 ・昨年度に引き続き，校務の見直し（令和4年度：学級経営案の廃止，「あゆみ」記述欄を年度末1回の記入，成績処理週間の設置，一斉退校日の徹底等）に引き続き（令和5年度：振り込みによる学級会計処理，tetoruでの配信，朝の開錠時刻の設定，水泳監視等の授業支援ボランティアの募集，個人懇談日の工夫（終業式から1日開ける）等）を行うことにより，教職員の働き方に対する意識改革を図った。 ・現在の働き方や校務の見直しについてのアンケートを実施し，本校の課題を把握・整理するとともに，働き方に対する意識の改革を図り，校務のさらなる見直しの視点を明らかにすることができた。「昨年度までと比較して，『働き方』に対する意識は変わってきたと感じますか。」の項目では，84．6%の教職員が肯定的な回答をしている。	・1か月の超過勤務時間45時間以内の教職員の割合は，100%の数値となり成果が見られる。一斉退校日の徹底（毎週火曜日17:30），その他の曜日（18:00）を退校目標時刻として，今後も職員の働き方や働き方に対する意識の変革を進めていく。 ・現在の働き方を見つめ直すことを視点に，アンケートを継続的に実施し，意識改革と併せ，組織全体で業務改善を進めていく。アンケート結果で，効果を感じないとの回答が多かった「タブレットドリルの活用」については，利用の実態を把握するとともに，効果的な活用を教職員全体で模索するための研修等を実施する。 ・PTAや地域への働きかけも浸透しつつあり，学校の働き方改革に対する意識も変わってきている。今後も，校内だけでなく，各方面へ本来の学校の役割を明確にする視点で，学校の働き方を伝えていく。	A	・職員の意識変革への取組が進んでいる。 ・働きやすい職場づくりを実践されていて良いと思います。